

会議録様式

附属機関等の名称	杉戸町下水道事業審議会
会議名	令和7年度 第2回杉戸町下水道事業審議会
開催日時	令和7年10月24日（金）午前10：00～12:00
開催場所	杉戸町上下水道課 二階会議室
議題	（1）議事 杉戸町下水道事業経営戦略の改定として、施設・設備投資及び財源見通しの考え方について
公開・非公開の別	☒ 公開 ・ 一部公開 ・ 非公開（傍聴者 0人）
	（非公開の場合理由）
出席委員氏名	新井久孝委員、大坪安吉委員、川嶋忠雄委員、桜井政雄委員、高野忠富委員、蓮沼弘行委員、引地量哉委員、堀江津喜子委員、藤倉正委員、松本和也委員、間中健太郎委員
審議の概要	（1）議事 杉戸町公共下水道事業経営戦略の改定として、施設・設備施設・設備投資及び財源見通しの考え方について ◆事務局より、配布資料の説明及び資料1 第1章～第4章について説明 <u>質疑および意見</u> ●第2章（P5～P40） 桜井委員 38 ページ管路経年化率のグラフに杉戸町のデータに記載がない。 事務局 最も古い管渠が令和13年度に法定耐用年数を迎えるため、現状では標記がされない。 ※その他、資料内の誤字、誤表記、画像、レイアウト等に関して修正の指摘があった。 ●第3章（P41～P49） 桜井委員 中川流域下水道の管路の布設替えに伴う負担金は今後どうなるのか。 事務局 更新費用が生じた場合、中川流域下水道の構成市町の負担割合に応じて建設負担金を支出することになる。 ※その他、資金残高の状況を明記するか検討するべきとの意見があった。 ●第4章（P50～P51） 高野会長 この経営戦略は令和3年から12年までの10年間の計画であり、今回中間見直しとの認識だが、この経営目標は当初設定しておいたものか、今回新たに設定したものか。 事務局 ①～④については当初から設定しており、⑤は下水道を取り巻く現状に鑑み追加したものである。

松本委員	①～④について、今後の具体策については明記しないのか。
堀江委員	八潮市の事故があり、町民の関心が非常に高い。はっきりと表現したほうが良い。
事務局	経営戦略内に具体策まで記載するか検討する。
間中委員	アグリパークの下水道整備に伴い、道路の舗装が綺麗になった。地域の生活環境の改善にもつながった。
引地委員	水洗化推進とあるが、メディア等で浄化槽も見直されているという報道があった。水洗化率 100%が理想だが、費用を考えた場合、浄化槽も並行して検討したほうが良いのではないか。
新井委員	これから先、工事等で莫大な費用が掛かる。浄化槽もやむを得ないと思う。
川嶋副会長	この経営戦略の中での水洗化率とは、下水道管が敷設されている場所における下水道接続の割合である。昔は、浄化槽や農業集落排水などの類似施設を含めて水洗化と言っていたが、誤解の無いようにされたい。
大坪委員	町内では、下水道に接続できる地域でも空き家が目立つ。都市計画も含めて再考する時代になっているのではないか。 雨水処理費用として基準内繰入金をしているが、近年多発する集中豪雨が町内で起きた場合、計画通りにいかなくなる。繰入金の削減は必要だがこの辺も考えたほうが良い。
蓮沼委員	町民目線で考えるならば、経費回収率の向上、独立採算の原則に基づく健全経営というのは、町民の負担が増えることを指している。町民の方は料金の値上げに対してどれだけ利益を受けられるのかという視点を持っていただくべきである。 効率的・効果的な運営とあるが、杉戸町は下水道事業を7名で行っており、人員の削減はこれ以上難しい。県の例でいうと DX 化により、機械ができるところは機械にやらせる。そういった具体的な中身を町民として注視してもらいたい。 高野台地区の管路がもうすぐ法定耐用年数の 50 年を迎える。これは次の 50 年、その先も起こる。そう考えると、子や孫・曾孫の世代まで継続していけるような事業体になっているか、考えていかなければならない。
事務局	町民目線でのご意見を頂いた。町民の方が興味関心をもって自分事として考えていただけるように記載したい。
川嶋副会長	次回、本戦略の説明が全て終えてから、遡って第 4 章を改めて議論するのが良い。ここが根本的な部分であり、十分時間をかけて話し合うべきと思う。
高野会長	次回、投資・財政計画の具体的な中身をやっていく。その審議を踏まえて、計画・指標について審議を進めていきたい。

杉戸町附属機関等の会議の公開要領第 7 の規定により署名する。

令和 7 年 11 月 12 日

署名委員

大坪 安吾

署名委員

松本 和也